

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401311		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホームあったかいご こおりやま	ユニット名	けやき棟
所在地	仙台市太白区郡山字石塚21番地の7		
自己評価作成日	平成23年11月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道4号線から少し離れた住宅街の一角に、白い二階建てで外には大きなウッドデッキがある場所があったかいご こおりやま です。道路を挟んだ向かいには畑があり、休みの日には近所の子供達が元気に遊んでいる声が聞こえてくる閑静な環境です。あったかいごの名の下ご利用者に心温まる支援を職員一同心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道4号バイパスを少し入った閑静な住宅地にある。会社の寮を改築して開設された2階建てである。「あたたかい介護」と「一人ひとりにあった介護」を兼ねて「あったかいご」と名づけられた。「毎日の安心と快適な時間のお手伝いをします」をモットーとし、管理者を中心に職員全員が寄り添う介護に取り組んでいる姿勢が感じられる。看護師が勤務し、24時間オンコールの医療機関との連携が整い、健康面にも安心できる。道路沿いにウッドデッキがあり日向ぼっこや談話の場であり、道路は小学校の通学路で子供達の元気な姿と明るい挨拶が聞こえる。近隣の方も通る度声をかけて下さる。ホームをとりまく環境は良好である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年12月9日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあったかいご こおりやま)「ユニット名 けやき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、それを念頭に日々従事している。理念は、職員間で相談し決定した為、理念を共有して実践に向け取り組んでいる。	理念「自分らしく・明るい笑顔で、安心できる、地域と触れ合える、あったかい生活を支援します」は開設時に職員で話し合い策定した。この理念を大切に継続している。毎月の全体会議で振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方への挨拶やお声掛けを徹底している。町内会へ入会し、行事等へ極力参加するように努めている。	町内老人会の方が週一回来所され、入居者と触れ合ったり、ハーモニカボランティアの方が来ると地域の方が聞きに来る。小学6年生の体験学習の場としているため、彼ら卒業生が声をかけてくれる等地域との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアや小学校の体験学習等の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	助言や提案、ご指摘を真摯に受け止め更なるサービスの向上に努めている。利用者の外出先等に活かしている。	会議は奇数月に近くのコミセンの会議室で6回開催している。町内会長(民生委員を兼ねている)、包括支援センター職員、家族等出席があり、意見、要望、事業者から状況報告、行事案内等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて機会を設けているが、それ以外については往來の機会はない。	介護保険更新時、生保関係担当者は年1回来所し助言、指導を頂いている。事業所では対応できない困難事例は包括支援センターと連携し対応している。社会福祉士受験生の体験実習の場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修への参加を通し、職員の知識を深め拘束をしないケアに努めている。	建物構造上2階ドアに鈴を、1階ドアにモニター付インターホンを設置し、出入り及び来客の確認をしている。施錠はしていない。見守りに対応し、民生委員に入居者リストを配布し、近隣の協力は得られている。職員は身体拘束の弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修への参加を通し、十分に注意を払い防止に努めているが、関連法について知識が浅い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者があり、日々のケアの中で知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を実施し、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご要望があれば、その都度機会を設けている。また、各玄関へ意見箱を設置している。	月1回家族会を開催している。今月もクリスマス会を兼ねた会だが参加者が少ない。訪問マッサージの要望があり利用している。仕事、遠方等理由はあるがより多くの家族の面会や行事参加が得られるよう工夫を期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一回定例会議を予定しているが、状況に応じ実施できていない。	毎月の全体会議で職員の意見、要望を聞き対応している。管理者と個別に話し合う機会もある。電動ベッドの利用、トイレに手すりの設置、車イスの入り易いドアに変える等職員の提案で実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々を正當に評価し、給与・待遇等に反映しているが十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修を職員の実績に応じて実施しているが、十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人宮城県認知症グループホーム連絡協議会へ加入しているが、研修等への参加ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のご要望に応えられるように連絡を密に図っている。サービス利用前には、ご本人に一度事業所へ足を運んで頂き、機会を設けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の都合の良い時間調整を行い、必要に応じて個別に面談の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの資料請求や問い合わせを行い、今必要とするサービスの検討・提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊敬の念を持ち、気配り・目配りを心掛け信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも来訪時に状況をお伝えし、家族と共に問題解決に努めている。状況に応じ、定期的に連絡を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出も兼ね、以前暮らしていた地域へ足を運ぶ等努めている。	月1回必ず外出する機会を作っている。店、美容院等は入居者の高齢化や店の廃業等で疎遠になることが多くなった。職員から声をかけて、また、家族の協力を得て馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席や外出時のメンバー等への配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の情報収集を行い、必要に応じて定期的に連絡を図るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での言動や行動に注視し、そこから思いをくみ取りケアへ反映するように努めている。	日々の関わりの中で話しを聞いたり、表情や動作を観察し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。ソワソワと動き出すとトイレに誘導、外出すると穏やかになる方は一緒に買物に行く等対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて家族や以前のサービス担当者からの聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活の様子や心身状態等を個別に記録し、把握に努めている。また、検討会議へ活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の都合もあり、ご家族を交えた検討が実施できていない。しかし、必要に応じて連絡を密に図っている。	日々の状況を記録する連絡ノートを活用し、3ヶ月に1回見直しをしている。ケアマネ、管理者、担当者、看護師と話し合い介護計画を作成する。状況に変化があった時はその都度作成する。家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、また職員間で閲覧できる連絡ノートを活用し情報の共有を図り、プランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じたサービスに努め、可能な限りでの実施を図っている。訪問マッサージや以前にはデイサービスの併用等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めているが、十分に活用されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所協力病院の二週間に一度の往診を勧めている。	全員が協力医の2週間に1回の往診を利用している。他科受診の時は職員が付き添い支援している。受診結果は受診記録表に記載し職員に周知し、家族にも報告している。訪問歯科医の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況や変化を専従の看護師へ報告し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密に図り、協働体制に努めている。また、当事業所協力病院を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時にはご家族との面談の場を設け、方針についての確認や要望、同意を得ている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を文章化し、入所の時本人、家族に説明している。ホームでの看取りの要望があれば、重度化や終末期を支えていける力量、体制は整っている。協力医による「看取りケアにおける共有化」を職員全員に研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	立会いいい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防隊(災害時にもおける)を編成し、地域との消防団との協力体制に努めている。	消防署立会いで年2回避難訓練(夜間想定を含む)を実施している。防災設備の定期点検も業者と一緒にこなしている。3月11日の大震災後備蓄、生活用品を見直し、防寒用具を人数分用意した。	前回の外部評価で「地域との更なる協力関係の確立」を次のステップに向けての取り組む目標となっており達成期間継続中です。協力体制が整えられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を常に心掛け、培ってきた生活環境や習慣等、利用者一人ひとりに合わせた対応に努めている。	よび名は下の名に「さん」をつけて呼んでいる。職員は動きや視線からなに気なく近寄り、耳もとでトイレ誘導の声かけをする。個人的なことは各部屋で話している。声のトーンも穏やかでプライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での言動や行動、表情等から読み取り、声掛け確認するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに沿った支援に努めているが、人員が確保できない状況の時には、外出や入浴の時間帯等が制限されてしまう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合わせ、提供するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力やその時の気分に合わせ、共に行なうように努めている。	献立は遅番職員がつくる。食材は宅配利用と入居者と一緒に買物に行っている。夜勤者は朝食、夕食を一緒に食べ、昼はひとりの職員が食事介助しながら食べている。月1回外出の時に必ずファミレスで外食を楽しんで来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別に記録し、状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お茶でのすすぎやブラッシングを実施している。また、状態に応じて歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を個別に記録、排泄間隔の把握に努め支援に反映している。	個別の排泄チェック表を活用してトイレ誘導をしている。日中はリハビリパンツで過ごし、トイレでの自立排泄を支援している。夜間のみオムツを使用し、体位交換とあわせてオムツ交換をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力下剤には頼らず、食事の形態や献立、運動等に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員が確保できない時や時間帯では制限されてしまう事がある。	曜日、時間は要望に応じてはいるが夜8時迄の入浴としている。一対一で対応し安全に入浴を楽しんで頂けるよう支援している。嫌がる方にはタイミングをみて声がけの工夫をしている。入浴剤で温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境作りや使い慣れた寝具を準備し、安眠や休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する目的や副作用等の把握に努め、必要に応じて看護師やかかりつけ医への報告や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好等の把握に努め、買い物やドライブ、塗り絵等の必要物品を準備し実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回は遠方への外出を企画している。その日での希望で人員が確保できない時には実施が難しい。	行事担当者が計画を立て実行している。最近では高速道路にのり菅生サービスエリアまでドライブし食事をしてきた。日常的には近くの毘沙門さまへのお参りを兼ねての散歩によく行く。道路に面したウッドデッキでおしゃべりや日向ぼっこをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はすべて管理保管している。状況に応じて、その時に現金を所持し使用できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節感のある掲示物や調度品を揃え、馴染みある空間作りに努めている。	居間兼食堂は採光に難点があるた照明に工夫がみられる。壁にはクリスマスの飾りで季節感が溢れている。毎朝職員と入居者が掃除している。エアコン、空気清浄機を活用し空気に澱みがない。所々にソファを置き、堀コタツのある和室があり思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室を設け、自由に利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある調度品やご家族の写真等を配置し、空間作りに努めている。	居室にはエアコン、ベット、ダンス、洗面台が備え付けられている。入居者はテレビ、整理ボックス、机等馴染みの物を持ち込み、家族の写真、手づくりの作品等飾られてその人らしい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの後付やトイレの変更等安全な環境作りに努めている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401311		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	グループホームあったかいご こおりやま	ユニット名	はぎ棟
所在地	仙台市太白区郡山字石塚21番地の7		
自己評価作成日	平成23年11月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>国道4号線から少し外れた住宅街の一角に、白い二階建てで外には大きなウッドデッキがある場所があったかいご こおりやま です。道路を挟んだ向かいには畑があり、休みの日には近所の子供達が元気に遊んでいる声が聞こえてくる閑静な環境です。あったかいごの名の下ご利用者に心温まる支援を職員一同心掛けています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は国道4号バイパスを少し入った閑静な住宅地にある。会社の寮を改築して開設された2階建てである。「あたたかい介護」と「一人ひとりにあった介護」を兼ねて「あったかいご」と名づけられた。「毎日の安心と快適な時間のお手伝いをします」をモットーとし、管理者を中心に職員全員が寄り添う介護に取り組んでいる姿勢が感じられる。看護師が勤務し、24時間オンコールの医療機関との連携が整い、健康面にも安心できる。道路沿いにウッドデッキがあり日向ぼっこや談話の場であり、道路は小学校の通学路で子供達の元気な姿と明るい挨拶が聞こえる。近隣の方も通る度声をかけて下さる。ホームをとりまく環境は良好である。</p>
---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年12月9日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあったかいご こおりやま)「ユニット名 はぎ棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、それを念頭に日々従事している。理念は、職員間で相談し決定した為、理念を共有して実践に向け取り組んでいる。	理念「自分らしく・明るい笑顔で、安心できる、地域と触れ合える、あったかい生活を支援します」は開設時に職員で話し合い策定した。この理念を大切に継続している。毎月の全体会議で振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方への挨拶やお声掛けを徹底している。町内会へ入会し、行事等へ極力参加するように努めている。	町内老人会の方が週一回来所され、入居者と触れ合ったり、ハーモニカボランティアの方が来ると地域の方が聞きに来る。小学6年生の体験学習の場としているため、彼ら卒業生が声をかけてくれる等地域との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアや小学校の体験学習等の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	助言や提案、ご指摘を真摯に受け止め更なるサービスの向上に努めている。利用者の外出先等に活かしている。	会議は奇数月に近くのコミセンの会議室で6回開催している。町内会長(民生委員を兼ねている)、包括支援センター職員、家族等出席があり、意見、要望、事業者から状況報告、行事案内等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて機会を設けているが、それ以外については往來の機会はない。	介護保険更新時、生保関係担当者は年1回来所し助言、指導を頂いている。事業所では対応できない困難事例は包括支援センターと連携し対応している。社会福祉士受験生の体験実習の場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修への参加を通し、職員の知識を深め拘束をしないケアに努めている。	建物構造上2階ドアに鈴を、1階ドアにモニター付インターホンを設置し、出入り及び来客の確認をしている。施錠はしていない。見守りに対応し、民生委員に入居者リストを配布し、近隣の協力は得られている。職員は身体拘束の弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修への参加を通し、十分に注意を払い防止に努めているが、関連法について知識が浅い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者があり、日々のケアの中で知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を実施し、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご要望があれば、その都度機会を設けている。また、各玄関へ意見箱を設置している。	月1回家族会を開催している。今月もクリスマス会を兼ねた会だが参加者が少ない。訪問マッサージの要望があり利用している。仕事、遠方等理由はあるがより多くの家族の面会や行事参加が得られるよう工夫を期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一回定例会議を予定しているが、状況に応じ実施できていない。	毎月の全体会議で職員の意見、要望を聞き対応している。管理者と個別に話し合う機会もある。電動ベッドの利用、トイレに手すりの設置、車イスの入り易いドアに変える等職員の提案で実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々を正當に評価し、給与・待遇等に反映しているが十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修を職員の実績に応じて実施しているが、十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人宮城県認知症グループホーム連絡協議会へ加入しているが、研修等への参加ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のご要望に応えられるように連絡を密に図っている。サービス利用前には、ご本人に一度事業所へ足を運んで頂き、機会を設けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の都合の良い時間調整を行い、必要に応じて個別に面談の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの資料請求や問い合わせを行い、今必要とするサービスの検討・提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊敬の念を持ち、気配り・目配りを心掛け信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも来訪時に状況をお伝えし、家族と共に問題解決に努めている。状況に応じ、定期的に連絡を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出も兼ね、以前暮らしていた地域へ足を運ぶ等努めている。	月1回必ず外出する機会を作っている。店、美容院等は入居者の高齢化や店の廃業等で疎遠になることが多くなった。職員から声をかけて、また、家族の協力を得て馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席や外出時のメンバー等への配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の情報収集を行い、必要に応じて定期的に連絡を図るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での言動や行動に注視し、そこから思いをくみ取りケアへ反映するように努めている。	日々の関わりの中で話しを聞いたり、表情や動作を観察し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。ソワソワと動き出すとトイレに誘導、外出すると穏やかになる方は一緒に買物にいく等対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて家族や以前のサービス担当者からの聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活の様子や心身状態等を個別に記録し、把握に努めている。また、検討会議へ活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の都合もあり、ご家族を交えた検討が実施できていない。しかし、必要に応じて連絡を密に図っている。	日々の状況を記録する連絡ノートを活用し、3ヶ月に1回見直しをしている。ケアマネ、管理者、担当者、看護師と話し合い介護計画を作成する。状況に変化があった時はその都度作成する。家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、また職員間で閲覧できる連絡ノートを活用し情報の共有を図り、プランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じたサービスに努め、可能な限りでの実施を図っている。訪問マッサージや以前にはデイサービスの併用等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めているが、十分に活用されていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所協力病院の二週間に一度の往診を勧めている。	全員が協力医の2週間に1回の往診を利用している。他科受診の時は職員が付き添い支援している。受診結果は受診記録表に記載し職員に周知し、家族にも報告している。訪問歯科医の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況や変化を専従の看護師へ報告し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密に図り、協働体制に努めている。また、当事業所協力病院を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時にはご家族との面談の場を設け、方針についての確認や要望、同意を得ている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を文章化し、入所の時本人、家族に説明している。ホームでの看取りの要望があれば、重度化や終末期を支えていける力量、体制は整っている。協力医による「看取りケアにおける共有化」を職員全員に研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時への対応に努めているが、定期的な訓練が実施できてない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防隊(災害時にもおける)を編成し、地域との消防団との協力体制に努めている。	消防署立会いで年2回避難訓練(夜間想定を含む)を実施している。防災設備の定期点検も業者と一緒にこなしている。3月11日の大震災後備蓄、生活用品を見直し、防寒用具を人数分用意した。	前回の外部評価で「地域との更なる協力関係の確立」を次のステップに向けての取り組む目標となっており達成期間継続中です。協力体制が整えられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を常に心掛け、培ってきた生活環境や習慣等、利用者一人ひとりに合わせた対応に努めている。	よび名は下の名に「さん」をつけて呼んでいる。職員は動きや視線からなに気なく近寄り、耳もとでトイレ誘導の声かけをする。個人的なことは各部屋で話している。声のトーンも穏やかでプライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での言動や行動、表情等から読み取り、声掛け確認するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに沿った支援に努めているが、人員が確保できない状況の時には、外出や入浴の時間帯等が制限されてしまう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合わせ、提供するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力やその時の気分に合わせ、共に行なうように努めている。	献立は遅番職員がつくる。食材は宅配利用と入居者と一緒に買物に行っている。夜勤者は朝食、夕食を一緒に食べ、昼はひとりの職員が食事介助しながら食べている。月1回外出の時に必ずファミレスで外食を楽しんで来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別に記録し、状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お茶でのすすぎやブラッシングを実施している。また、状態に応じて歯科往診を依頼している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を個別に記録、排泄間隔の把握に努め支援に反映している。	個別の排泄チェック表を活用してトイレ誘導をしている。日中はリハビリパンツで過ごし、トイレでの自立排泄を支援している。夜間のみオムツを使用し、体位交換とあわせてオムツ交換をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力下剤には頼らず、食事の形態や献立、運動等に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員が確保できない時や時間帯では制限されてしまう事がある。	曜日、時間は要望に応じてはいるが夜8時迄の入浴としている。一対一で対応し安全に入浴を楽しんで頂けるよう支援している。嫌がる方にはタイミングをみて声がけの工夫をしている。入浴剤で温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境作りや使い慣れた寝具を準備し、安眠や休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する目的や副作用等の把握に努め、必要に応じて看護師やかかりつけ医への報告や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好等の把握に努め、買い物やドライブ、塗り絵等の必要物品を準備し実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回は遠方への外出を企画している。その日での希望で人員が確保できない時には実施が難しい。	行事担当者が計画を立て実行している。最近高速道路にのり菅生サービスエリアまでドライブし食事をしてきた。日常的には近くの毘沙門さまへのお参りを兼ねての散歩によく行く。道路に面したウッドデッキでおしゃべりや日向ぼっこをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はすべて管理保管している。状況に応じて、その時に現金を所持し使用できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節感のある掲示物や調度品を揃え、馴染みある空間作りに努めている。	居間兼食堂は採光に難点があるため照明に工夫がみられる。壁にはクリスマスの飾りで季節感が溢れている。毎朝職員と入居者が掃除している。エアコン、空気清浄機を活用し空気に澱みがない。所々にソファを置き、掘コタツのある和室があり思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室を設け、自由に利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある調度品やご家族の写真等を配置し、空間作りに努めている。	居室にはエアコン、ベット、タンス、洗面台が備え付けられている。入居者はテレビ、整理ボックス、机等馴染みの物を持ち込み、家族の写真、手づくりの作品等飾られてその人らしい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの後付やトイレドアの変更等安全な環境作りに努めている。		